

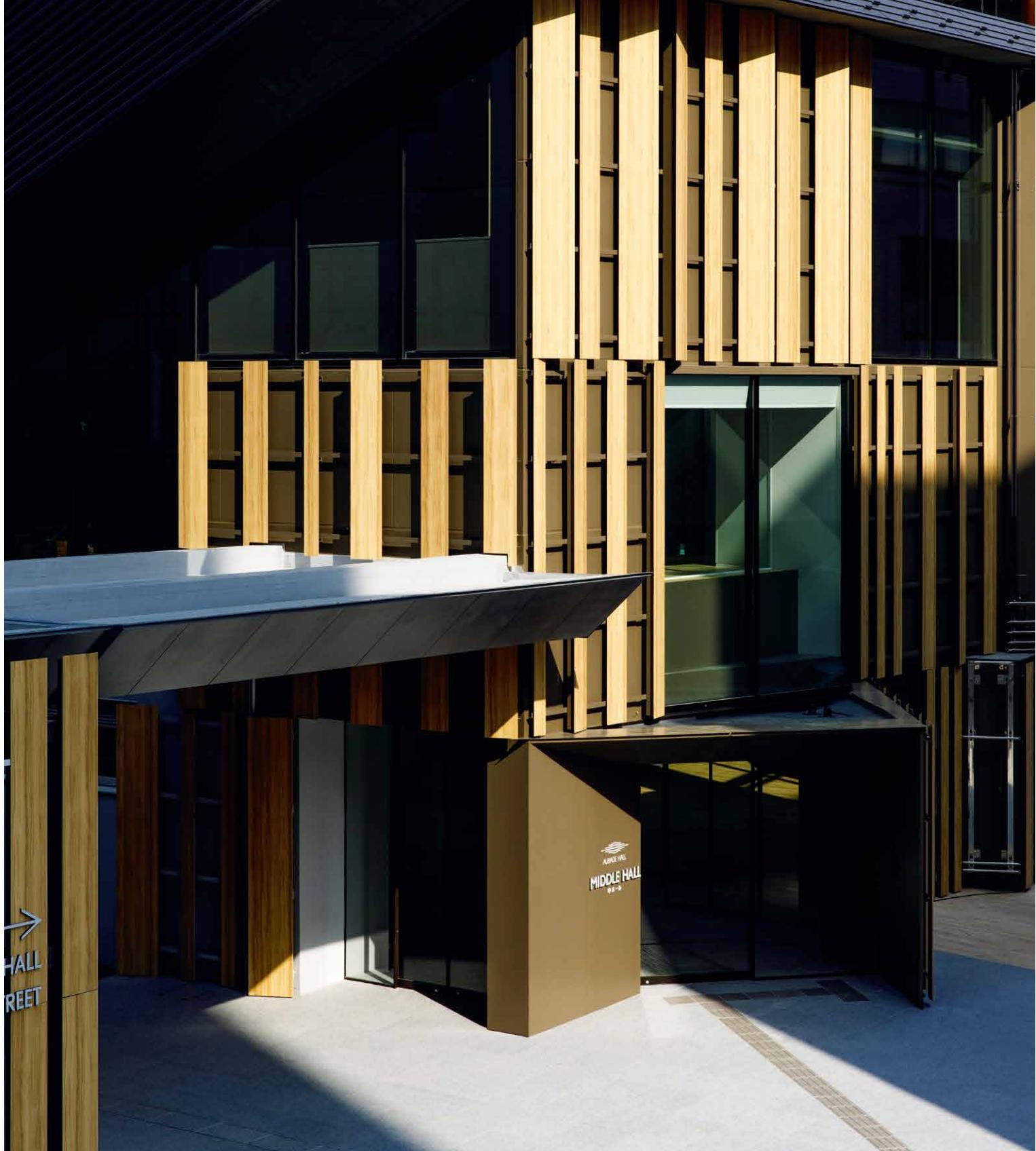
Mite Mite

「人と、街と、劇場をつなぐ。」 オーバード・ホール情報誌

2023-autumn
VOL.



AUBADE HALL



僕にとって宝物のような作品なんです。

エブリ・ブリリアント・シング

～ありとあらゆるステキなこと～



佐藤隆太
interview

佐藤隆太 Ryuta Sato

1980年生まれ。東京都出身。
99年に宮本亜門演出のミュージカル『BOYS TIME』で舞台デビュー。2008年には『ROOKIES』(TBS)で連続ドラマの初主演を務めた。その後もテレビ・映画・舞台など多くの作品に出演。現在放送中のNHK大河ドラマ『どうする家康』では豊臣秀長役を演じており、9月にはU-NEXT独占配信のオリジナルドラマ『MALICE』の公開を控えている。

撮影：中村彰男

ちょっと切ないけれど、
明日を生きる勇気を与えてくれる、
世界で話題の観客参加型一人芝居。
主演の佐藤隆太さんにインタビュー。

一人芝居の重責に加えて、観客を“自分の物語”に引き込むという難役に再び挑戦する佐藤隆太さん。初演時がデビュー20周年の節目と重なったこともあり、彼にとって宝物のような作品となった本作の再演を心から待ち望んでいたという。

「前回の国内ツアーではコロナ禍で上演が叶わなかったところもありましたが、自分にとっては他の作品では味わったこともないような幸せな時間でした。大きさでなく、想像していた以上にいろんな“奇跡的”な瞬間が生まれたんです。参加型ということでお客さんたちも緊張されたと思うのですが、アクシデントや流れが止まるようなことも全然なく、むしろ会場全体を感動で包みこんでくれるような凄い方が沢山いた。僕だけじゃなく話の世界に加わってくれた方のすべてが全力で役に取り組んでくださるので…例えば声が小さい人も、頑張って演じてくれている姿がみんなの心を打つんです。そのひとつひとつが積み重なって作品を豊かにしてくれる。だから決して自分で作りあげる舞台ではなく、その場に居合わせた全員一緒に揃ってゴールに辿り着くような達成感がありました」

“語り手”と観客のやりとりはアドリブのように見えて、実は戯曲の段階からかなり計算され尽くした演出になっている。オリジナルの台本には作者であるダンカン・マクミランとジョニー・ドナヒューによる細かい指示と（観客の様々な反応を想定した）対応策が書き込まれているのもユニークな点。また、上演が始まる前に“語り手”が会場入りして番号のついたカードを配布したり、メインの登場人物（※例えば主人公の恋人役のサムなど）として大きく物語に関わってくれそうな人に声をかけたりと、事前に観客たちと親密な関係を築き上げておくことも本番を成功させるためのキーポイントかもしれない。

「エブリ・ブリリアント・シング～ありとあらゆるステキなこと～」は2013年に英国で生まれ、世界中で翻訳上演を重ねている一人芝居。日本でも2020年の初演ツアー以降、全国から再演を望む声が寄せられていた。本作がユニークなのは観客参加型（イマーシブシアター）の形態をとっているところ。観客は“語り手”的呼びかけに応え、配られたカードの自分の番号が呼ばれるとそこにかけられた言葉を読み上げたり、時には登場人物のひとりとして発言したりして、舞台はまるでトークセッションのような雰囲気で進行する。

「この人にお願いしようかな…というのは、ある程度“無茶ぶり”などもあるかもしれません（笑）、多少は心の準備ができる方澤山観にきてくださっているという実感はあります。とにかくこの作品に失敗なんてないこと、僕が全力で皆さんを楽しませるので何の心配もいらないってしっかり説明します。だから開演前のこの30分間がとても大切ですね」

中には、主人公の父親として結婚式のシーンで自由にスピーチを依頼されるような、なかなか難易度の高そうな役もあるが…

「でも本当に素晴らしいスピーチを披露してくださった方がいて、僕もその場で初めて聞いて驚いたのですが、会場も割れんばかりの大拍手でした。一方で言葉少なめでスピーチを終える方だっているけれど、その場合でも必ず僕がフォローしますので、観客の皆さんに物足りなさを感じさせることはできません。勇気を出して参加してくれた方を絶対に後悔させないのが、自分に課せられたいいちばん大切な役割だと思うのです。だから何が起こっても大丈夫！ 実際、同じ話なのにその日によって違う…というか二度と同じ舞台はないで、何度も足を運んでくださるお客様もいらっしゃいます。今日はどうなるんだろう？って」

物語は、自ら命を絶とうとした母親を何とか元気づけようと、“語り手”が子どもの目線で思いつく限りの「ありとあらゆるステキなこと」をノートに書き連ね始めた7歳の頃の記憶で幕を開ける。彼が成長して恋に落ちたり結婚したりする人生の様々な局面で、そのどんどん増えていく「ステキなこと」リストが深く関わってくる。

「もともとは母親のために書いていたリストが結局は主人公自身を支えることになるというプロットが見事。たとえ同じ体験をしていなくても、人生っていいことばかりじゃなく、うまくいかないことだっていっぱいあるから、誰もが自分と重ね合わせて共感することができるはず。みんなで“語り手”を応援したくなるし、僕自身も演じながら心から彼に幸せになって欲しいと願ってしまう。そんな熱い想いが自然と込み上げてくるので、テーマとして重たいものを扱っていないから、誰もが前向きな気持ちで劇場を後にすることができますが、この作品の持つ力であり最大の魅力だと思います。今回、演出・翻訳でとても信頼できる気の合う上田一豪さんと新たにタッグを組んだことで、初演以上に素晴らしい舞台を作り上げたいと意気込んでいます。ではオーバード・ホールで会いましょう！」

取材・文：東端哲也（ライター）

佐藤隆太さんよりコメント動画をいただきました！



参加はちょっとという方には、無理強いしませんし、そんな方にも心地よくお芝居を楽しんでもらえるようにしたいです。



一人芝居といっても、僕一人で作り上げられるものではないので、富山でどんなお客様と出会えるかとても楽しみです。

公演情報

『エブリ・ブリリアント・シング ～ありとあらゆるステキなこと～』

◆日時：2023年9月8日（金）開演 19:00 ★
9日（土）開演 14:00
10日（日）開演 14:00

★佐藤隆太さんによるアフタートークあり

◆会場：オーバード・ホール 中ホール
◆原作：ダンカン・マクミラン ジョニー・ドナヒュー
翻訳・演出：上田一豪
出演：佐藤隆太

◆チケット：[全席自由・整理番号付き・税込]
一般：4,000円 U-25：2,500円

※U-25：鑑賞時25歳以下対象。ご入場の際、身分証の提示が必要です。
※未就学児入場不可。

◆プレイガイド：アスネットカウンター

★チケットのお求めはP11「チケット購入方法」をご覧ください。

募集！

あなたのブリリアントなことを教えて！
皆さんの「マイ・ブリリアント・シング（わたしにとってステキなこと）」を募集します。ステキなことを#My_Brill_Thing「#toyama」をつけてTwitterで投稿してください。
～9月10日（日）公演終了まで



人形は、人間を超えた表現をしてくれます。



太夫、三味線、人形の三位一体が織りなす、世界に誇る伝統芸能「人形浄瑠璃 文楽」。10月の富山公演に先駆け、文楽人形遣いで人間国宝の桐竹勘十郎さんに、人形浄瑠璃の成り立ちや特長、今回の公演の見どころを解説していただきました。

「人形浄瑠璃 文楽」とは

私達は本年10月9日に初めてオーバード・ホール 中ホールで文楽公演を行います。

皆様は「文楽」をご存知でしょうか。他の芸能と並べて紹介される時にはよく、「能」「歌舞伎」「文楽」…と表記され、古典芸能のひとつのジャンルと勘違いされます。正確には「人形浄瑠璃文楽」なのです。「人形浄瑠璃」が我々のやっている芸能のジャンルで、大阪の「文楽座」の私達座員が演じる舞台を「人形浄瑠璃文楽」又は「文楽」と呼びます。

「人形浄瑠璃」は古くから伝わる芸能ですが、今のような形、義太夫節の語りと三味線、そして人形を組み合わせたのは約340年前の事です。先ず物語を進めていく「語り」と「三味線」。これは中世の琵琶法師が弾き語りをしていた「平曲」(平家物語)などの語りの芸能が発展したもので「浄瑠璃」と呼ばれました。

楽器も16世紀に琉球から伝わった三味線の原型を改良した、独自の三味線を使うようになりました。やがて、竹本義太夫が新しいスタイルの浄瑠璃を創始、これが「義太夫節」で、現代まで受け継がれています。

竹本義太夫が自分の芝居小屋「竹本座」を建てたのが1684年。場所は当時の大阪道頓堀です。義太夫は劇作家の近松門左衛門などに新作を依頼して人気を博し、次々と今に残る名作が生まれました。今回、オーバード・ホールで上演する「義経千本桜」も1747年にこの竹本座で初演された作品で、「菅原伝授手鑑」や「仮名手本忠臣蔵」と共に義太夫節の三大名作と呼ばれています。

息を合わせた三人遣いの人形

さて、この語りの世界の中で芝居をするのが人形です。竹本座ができた頃の人形は、まだ一人遣いの人形で、寸法も小さなものでしたが、その後人形にも色々と工夫が重ねられ、1734年には現在私達が遣っている遣い方「三人遣い」の原形が誕生しました。

「三人遣い」は、中心となる遣い手「主遣い」と左手を遣う「左遣い」、そして両足を遣う「足遣い」の三人が息を合わせて一体の人形を遣います。左手で人形の首(頭の部分)と右手を操作する主遣いは、左遣いや足遣いに合図を送りながら動きをコントロールします。この動きがぴたりと合うまではかなり時間が掛かりますが、何事も基本が大切です。三人の息が合い、太夫、三味線で創り上げる義太夫節の世界で活き活きと動いた時、人形は人間を超えた表現をしてくれます。

上演する物語の見どころ

10月に御覧頂く演目は二演目。先ず昼の部は「義経千本桜」で、今回は三段目の「すしやの段」を上演致します。源義経らしいらのとももり これもりに滅ぼされた平家ですが、実はその平家の武将、平知盛、維のりつね、教経らが生きていた…という筋立てで、三段目では吉野の鮒屋に身を隠している平維盛を巡って戦乱の世を懸命に生きる人々の物語です。私は“いがみの権太”をつとめます。悪党の権太が最後に見せる孝行…など名作の一幕です。

また、夜の部では「桂川連理柵」を上演致します。これは1776年に作られた「世話物」の演目。武士や公家、天皇などの世界を描いた「時代物」に対して、江戸時代の庶民の生活で



©青木信一

の出来事を題材に示したのが「世話物」です。近松門左衛門作の「菅根崎心中」が「世話物」の始まりとされています。この物語は京都が舞台。旅先の宿で隣家の娘“お半”と、間違ひを起こした帯屋の“長右衛門”、継母の悪巧みや、父、女房の苦悩…十四歳のお半への思い等…二人の心中に至る人間模様が見どころです。



全国各地を公演していると、その土地に古くから伝わる芸能や風習に出会う事がありますが、多くの人達の手で今に伝わるものには、その人々の思いが込められています。私達もまた、「人形浄瑠璃文楽」という芸能を今日まで伝えてくれた多くの先人達に感謝しながら舞台をつとめたいと思っております。皆様方もこの機会に是非御覧頂きますよう、お願い申し上げます。オーバード・ホール 中ホールにてお待ちしております。

文・イラスト：人形浄瑠璃文楽座 三世 桐竹勘十郎



桐竹勘十郎
Kanjuro Kiritake

昭和42年7月、文楽協会人形部研究生となる(14才)。三代吉田蓑助に師事、吉田蓑太郎と名のる。昭和43年4月、文楽協会技芸員となる。初役は、大阪毎日ホールにおける「壇浦兜軍記・阿古屋琴貴の段」の水紋。平成15年4月、大阪・国立文楽劇場において、三代桐竹勘十郎を襲名。『絵本太功記・尼ヶ崎の段』の武智光秀で披露。平成15年5月、東京・国立劇場において「尼ヶ崎の段」の武智光秀で三代桐竹勘十郎を襲名披露。令和3年10月、重要無形文化財(人間国宝)に認定。

義経千本桜

桂川連理柵

文楽

公演情報

人形浄瑠璃 文楽

◆日時：2023年10月9日(月・祝)

【昼の部】13:30開演
『義経千本桜』椎の木の段、すしやの段
【夜の部】18:00開演
『桂川連理柵』六角堂の段、帯屋の段、道行櫻の桂川

◆会場：オーバード・ホール 中ホール

◆チケット：[全席指定・税込]

S席一般：4,000円 S席ジュニア：2,000円
A席(3階)一般：2,000円 A席(3階)ジュニア：1,000円

※ジュニア：高校生以下対象。※未就学児入場不可。

※A席(3階)は、人形や舞台の一部が見えにくい場合があります。

◆プレイガイド：アスネットカウンター ほか

★チケットのお求めはP11「チケット購入方法」をご覧ください。

◎配役表はこちら

チケット発売中！



人形浄瑠璃

AUBADE ACOUSTIC WAVE ☆

最近、富山で歌う機会が増えて喜んでいたのですが、今回は、こんなに素敵なホールで、ピアノの弾き語りをすることになりました。最高な気分です。みなさんにお会いできるのを楽しみにしています。



ASKA

1979年に「ひとり咲き」でデビュー。「SAY YES」「YAH YAH YAH」「めぐり逢い」など、数々のミリオンヒット曲を世に送り出す。音楽家として楽曲提供も行う傍ら、ソロ活動も並行し、1991年にリリースされた「はじまりはいつも雨」が、ミリオングループを記録。同年のアルバム「SCENE II」がベストセラーとなり、1999年には、ベスト・アルバム「ASKA the BEST」をリリース。2023年には「ASKA & DAVIS FOSTER PREMIUM CONCERT 2023」、「ASKA Premium Concert Tour -Wonderful World- 2023」を開催。



ASKA

公演情報

AUBADE ACOUSTIC WAVE

◆日時：2023年9月2日（土）17:00開演

◆会場：オーバード・ホール 中ホール

◆出演：タケカワユキヒデ、ASKA、宮沢和史、尾崎裕哉

◆チケット：[全席指定・税込]

一般：8,000円 U-25：2,000円

チケットは完売しました

まもなく開催！

歌と生音にこだわった、 アコースティックライブ！

2023年9月、日本のポップス・ロックシーンの中心に立つアーティストが集結。オーバード・ホール 中ホールを多彩なサウンドで華やかに飾ります。珠玉の作品群から選曲した名作を、心の芯に響くアコースティックサウンドでご体感ください。

富山県は子供の頃からよく遊びに行っていました。しかし、このところ何年も自身のコンサートが開催できていませんでした。「AUBADE ACOUSTIC WAVE」に参加するという形で富山の皆さん前で歌えることを心から嬉しく、幸せに思っています。



Kazutumi Miyazawa

1966年山梨県甲府市生まれ。THE BOOMのボーカリストとして1989年にデビュー。2014年の解散以降はソロとして活動中。代表曲のひとつである「島唄」はアルゼンチンでの大ヒットをはじめ、国境を越えカバーやされている。作家としても、石川さゆり、KinKi Kids、喜納昌吉、小泉今日子、友部正人、夏川りみ、MISIA、矢野顕子など、多くのミュージシャンに詞、曲を提供している。沖縄県立芸術大学非常勤講師を務め、執筆活動も行う。



Hiroya Ozaki

オーバード・ホール 中ホールの開館おめでとうございます！大ホールに続き、中ホールが完成したことによって、北陸で音楽や芸術、エンターテインメントの動きがさらに活発になっていくことを願っています。個人的には昨年「OZAKI30 LAST STAGE 尾崎豊展」のファイナルを富山で迎えたこともあり、定期的に富山で歌う機会に恵まれていることをとても嬉しく思っています。ますます進化する富山とオーバード・ホールを祝福するように、「AUBADE ACOUSTIC WAVE」を盛り上げたいと思います！

舟渡聟



三番叟



野村万作 萬斎 狂言の現在 2023

狂言ならではの、笑いと舞の世界

今回上演される「舟渡聟」も「三番叟」も、野村万作一門のお家芸のような作品である。

「舟渡聟」は、男が妻の実家に初めて挨拶に行くために渡し舟に乗る前半部と、実家に着いて両親に挨拶する後半部の二部構成になっている。聟を乗せた渡し舟の船頭は無類の酒好きで、男が持参した酒樽に目をつけ、酒をふるまえと要求する。男が断ると、船を荒く漕いでたり、流したりするので、しかたなく男は酒を飲ませる。軽くなつた酒樽を手に舅宅に着いた男を姑が出迎え、外出している舅を迎へに行く。ところがこの舅は、実は先ほどの船頭で…。

前半の船上の場面で、聟は船頭の棹の動きに合わせて身体を動かし、舟が激しく揺れたり、流されたりする様子を表す。何もないところに船、水、波を見せる、狂言ならではの秀逸な演出である。以前は、万作師の舅、萬斎師の聟という親子共演がひじょうに多かった。今回の公演では、万作師の弟子の中村修一師が聟を勤める。万作師の演じる、茶目っ気たっぷりで、図々しいのに憎めない船頭のキャラクターも、楽しんでいただきたい。

「三番叟」は、「翁」という儀礼曲の中で狂言方の勤める役である。おおづみ 大鼓の突き上げるようなリズムに乗って三番叟が走り出、自ら掛声をもみ 発しながら、勢い良く足拍子を踏んで〈揉ノ段〉を舞う。終盤では、兩足を揃えて三度飛び上がる「鳥飛び」もあり、力強く躍動的な舞である。次いで三番叟は黒式尉の面を着け、鈴を手にして〈鈴ノ段〉を舞う。ゆったりとしたテンポから始まり、足拍子や、種蒔きのような

所作のうちに段々とテンポが速まる。手にした鈴が激しく振られ、その音が囃子の演奏と響き合い、最高潮に達したところで、〈鈴ノ段〉は終わる。

三番叟の舞は足拍子が多いので、「三番を踏む」とも言われ、五穀豊穣を寿ぐ舞だとも言われる。萬斎師は、現代美術作家の杉本博司氏と組んだ「ディバインダンス・三番叟」をパリで上演するなど、三番叟の舞を磨きに磨いてきた。切れのある動きからあふれる生命力を感じ取っていただきたい。



文：綱本尚子

東京富士大学教授。富山市出身。大学のサークルで、野村万作介師に狂言を習う。著書『ビギナーズクラシックス日本古典 読曲・狂言』(角川ソフィア文庫)など。平成10年より「野村狂言座」の上演プログラムに、狂言の解説執筆。

公演情報

野村万作 萬斎 狂言の現在 2023

◆日時：2023年11月24日（金）19:00開演

◆会場：オーバード・ホール 中ホール

◆出演：野村万作、野村萬斎 ほか

◆チケット：[全席指定・税込]

S席：6,000円 A席：5,000円 U-25：3,000円

※U-25：鑑賞時25歳以下対象。公演当日の空席よりお席をご用意します。

※未就学児入場不可。

◆チケット発売：アスネット会員先行 9月23日（土）のみ

一般発売 10月1日（日）～

◆プレイガイド：アスネットカウンター

★チケットのお求めはP11「チケット購入方法」をご覧ください。

発チケ近

「ニューマドンナ」始動。

美術製作スタッフ大募集！

劇作家で演出家のタニノクロウが出身地である富山に単身で滞在し、演劇を製作するプロジェクト。第1弾「ダークマスター 2019 TOYAMA」、第2弾「笑顔の岩'20帰郷」に続く第3弾のタイトルは「ニューマドンナ」。今回は新作舞台の製作に挑みます！

いっしょに、舞台美術を作ろう！

タニノクロウ×オール富山の特徴は、なんといっても公募スタッフが「超リアル」な舞台美術を創り上げること。今回も舞台美術家・稻田美智子さんが、美術プランの考案・指導にあたります。また、第3弾ではなんと、第1弾・第2弾で美術スタッフとして大活躍した内山勇さんが美術リーダーを務めることが決定！ 楽しみながら、いっしょに舞台美術を作りませんか。（製作予定期間：2023年10月頃～2024年1月）

内山勇さんってこんな方！

確かな木工技術と温かな人柄で、美術プランナー、舞台監督からの信頼も厚い内山さん。今回は美術スタッフを取りまとめるリーダーを務めます。

新作舞台

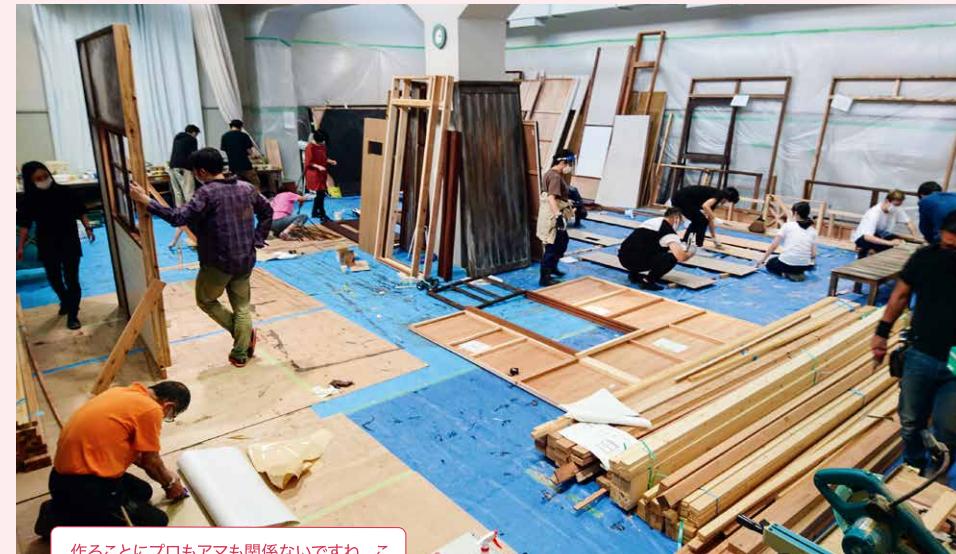


経験不問！

演劇が好き、舞台が好き、新しい何かにチャレンジしたいという方はもちろん、工具を使ったことがない、忙しくて毎回は出席できないという方も大歓迎です。

申込は9月8日（金）まで

お申込み、場所や日程など詳細は
こちらからご確認ください →



作ることにプロもアマも関係ないですね。これまでプロじゃない人達が作ったと思えないほどのクオリティでした。また、富山の人と一緒に作ることが、とても楽しめます。



作・演出：タニノクロウ

1976年生まれ。富山市出身で、元精神科医という異色のキャリアを持つ劇作家・演出家。セゾン文化財団シニアフェロー（2015年まで）。2000年医学部在学中に庭劇団ベニノを旗揚げ。以降全作品の脚本・演出を手掛ける。ヨーロッパを中心に、国内外の主要な演劇祭に多数招待。2016年「地獄谷温泉 無明ノ宿」にて第60回岸田國士戯曲賞、第71回文化庁芸術祭優秀賞ほか多数受賞。



美術：稻田美智子

長崎県出身。早稲田大学第一文学部、美術史学専修卒業。在学中に演劇、舞台美術に出会い、学内外の劇団の美術を始める。卒業後はフリーの舞台美術家として活動。「地獄谷温泉 無明ノ宿」「蝦夷道忘却ノ儀」（タニノクロウ 作・演出）、「秘密の花園」（唐十郎 作、福原充則 演出）ほか多数の美術プランを手掛ける。タニノクロウ×オール富山「ダークマスター 2019 TOYAMA」、「笑顔の岩'20帰郷」でも美術プラン・美術指導を務めた。

公演情報

AUBADE HALL Produce タニノクロウ×オール富山「ニューマドンナ」

◆作・演出 タニノクロウ

◆日時：2024年1月25日（木）19:00開演
26日（金）19:00開演
27日（土）13:00開演／18:00開演
28日（日）13:00開演

◆会場：オーバード・ホール 中ホール

◆チケット：[全席自由・整理番号付き・税込]
一般：4,000円 U-25：2,500円
※U-25：鑑賞時25歳以下対象。ご入場の際、身分証の提示が必要です。
※未就学児入場不可。

詳細はオーバード・ホールのホームページにて順次公開予定！

Review

富山特別企画

坂東玉三郎×鼓童「アマテラス幻想」

2023年7月1日（土） オーバード・ホール 中ホール

美と躍動の共演

オーバード・ホール 中ホールが今、鼓動を始めようとしている。満席のホールはシーンと静まり、期待に胸膨らませた観客の全神経はステージに注がれている。太鼓の音が地響きのように徐々に迫り、ホールは振動し始めた。人間国宝 坂東玉三郎と太鼓芸能集団 鼓童の「アマテラス幻想」の開幕である。

内容は、須佐之男命の暴挙を嘆き天の岩戸に姿を隠した天照大神が、八百万の神々の祈りと天宇受賣の舞により岩戸から姿を現し、この世に光が蘇ったというあの日本神話である。

玉三郎の舞は優雅で雅やか、その姿は神々しい光に包まれまさにアマテラスで魅了された。一方、鼓童の太鼓は力強く勇壮、時に神秘的で叩き手の内面がストレートに伝わって来た。日々の謡や横笛も素朴で良い味を出して、天宇受賣の躍動感のある踊りも音楽とマッチして見事であった。せりふは一切なく、踊りと太鼓のみで日本神話の世界が見事に描き出されていた。私はこの神話の舞台である高千穂の天岩戸（天安河原）に行ったことがあるのだが、暗闇でトツトツとたたかれる太鼓を聞きながらその時に感じた不思議な空気感を思い出していた。

華やかで希望に満ちたすばらしい門出の公演であった。

文：大坪亮子【（公財）富山市民文化事業団 評議員】

Interview

小曾根真 featuring No Name Horses ～AUBADE HALL ANNIVERSARY～

2023年7月2日（日） オーバード・ホール 中ホール

終演後まだ熱が冷めやらぬ中、小曾根真さんに感想をお聞きしました。

— 初めてオーバード・ホール 中ホールで演奏してみていかがでしたか？

最高でした。ステージと客席の距離感がすごくよくて、お客様に届いているのが分かるんです。どの席の方も生の音が聴こえたと思います。このホールは壁に吸音材があるから響きすぎないんです。ジャズはリズムの音楽だから、残響があり過ぎるとリズムがぼけちゃうんですよ。ここなら自分の音も聴こえるだけ響いてくれて、しっかり鳴らせる。ジャズにはもってこいのホールだと思います。

— 富山のお客さんの反応はいかがでしたか？

こんなに良い反応をしてくださるとは思いがけませんでした。ジャズは瞬間に生まれる情報量が多くて、細かいところが見えないとノリきれない場合もあると思います。それがこの距離だと、しっかりお客様に伝わって、楽しんでくださって、あんなに熱く返してくださった。富山のお客さんは文化レベルが高く、ジャズが好きな方も多い耳が肥えていると思います。そういう意味でも今日の反応は最高でした。最後のスタンディングオベーションなんか、もう我慢できないって感じで皆さんが立ち上がって本当に嬉しかったですね。



オーバード・ホール HP のスタッフブログ
では、誌面に入りきらなかったエピソード
も掲載！ぜひご覧ください。→



主催公演情報

9 / 5
Tue

リーディングドラマ『終わった人』

内館牧子のベストセラー小説『終わった人』が、豪華俳優を迎えて最高に面白い朗読劇に！
 ◆原作＝内館牧子『終わった人』(講談社文庫)
 ◆台本・演出＝笹部博司
 ◆出演＝中井貴一、キムラ緑子
 ◆開演＝19:00
 ◆会場＝オーバード・ホール 中ホール
 ◆料金＝[全席指定・税込] 一般 6,000円
 U-25 3,000円



完売しました

9 / 23
Sat

山中千尋ニューヨーク・トリオ・ツア 2023・オータム 富山公演

世界を駆け巡るジャズ・ピアニスト山中千尋。ジャズの本場ニューヨークからのレギュラー・メンバーとの富山公演は5年ぶり。
 ◆出演＝山中千尋(ピア、キーボード)、Yoshi Waki(ベース)、John Davis(ドラムス)
 ◆開演＝18:00
 ◆会場＝オーバード・ホール 中ホール
 ◆料金＝[全席指定・税込] S席 6,600円
 A席 5,500円
 B席 4,400円



残りわずか

10 / 14 · 15
Sat Sun

トヤマ・パフォーミングアーツ・フェスティバル 2023

富山市民芸術創造センターで創作練習する団体が集う、年に一度のお祭りです。音楽やダンスなど多彩な60ステージに加え、体験コーナーや芝生広場でおいしく味わうグルメガーデン、キッズ向け企画など、ご家族で楽しめる2日間です。
 ◆時間＝両日とも10:30～17:00
 ◆会場＝富山市民芸術創造センター



入場無料

詳細はこちら



11 / 12
Sun

婦中ふれあい館開館25周年記念 三遊亭小遊三・瀧川鯉斗 落語会

笑点でお馴染みの落語界の重鎮・三遊亭小遊三と、令和初の真打となり、バラエティ番組やモデルなど多岐にわたり活躍している瀧川鯉斗が出演。
 ◆出演＝三遊亭小遊三、瀧川鯉斗、三遊亭遊子
 ◆開演＝14:00
 ◆会場＝婦中ふれあい館 ふれあいホール
 ◆料金＝[全席指定・税込] 3,000円



好評発売中

11 / 29
Wed

宝塚歌劇 花組公演

世代を超えて楽しめる豪華絢爛なステージをお楽しみください。
 ◆主演＝永久輝せあ
 ◆演目＝ミュージカル・ブレイ
 『激情』一ホセとカルメン
 ネオ・ロマンチック・レビュー
 『GRAND MIRAGE!』
 ◆開演＝13:30 / 18:00
 ◆会場＝オーバード・ホール 大ホール
 ◆料金＝[全席指定・税込] S席 8,300円
 A席 5,500円
 B席 3,500円



好評発売中

U-25：鑑賞時25歳以下対象の指定席引換券。座席はお選びいただけません。公演当日、当日券窓口で身分証をご提示の上、入場券とお引換ください。
 U-30：鑑賞時30歳以下対象の座席指定券。公演当日、入場の際に身分証の提示が必要です。 ジュニア：小学生から高校生が対象。SS席とU-30からは選べません。
 ※年齢による入場制限については、各公演で異なります。

情報は2023年8月17日現在のものです。変更となる場合があります。
 ご来場前にはオーバード・ホール公式HPで最新情報をご確認いただきますようお願いします。

9 / 16 Sat 11 / 19 Sun 桐朋アカデミー・オーケストラ
特別演奏会

特別演奏会 9/16(土) 14:00
 ◆指揮＝デリック・イノウエ ◆独奏＝長谷川潤(トランペット)
特別演奏会～バイエルン放送響のメンバーを迎えて～ 11/19(日) 14:00
 ◆指揮＝ジョシュア・タン
 ◆会場＝オーバード・ホール 大ホール
 ◆料金＝[全席自由・税込]
 各3,000円
 (友の会会員・学生 無料)



好評発売中

10 ~ 12月
(全13回) オーバード・ホール アウトリーチ企画
ウィークエンド・コンサート 2023

街なかへ、海辺の町へ、山あいへ。
 あなたのまちへ音楽をお届けします。

◆会場＝富山市内各地区



詳細はオーバード・ホール
HP内特集ページをご覧
ください。QRコード
QRコード

入場無料

10 / 19 Thu 12 / 21 Thu 市民のためのランチタイム
ジョイフルコンサート

富山で活躍する音楽家たちによるコンサート。

◆時間＝11:50～12:50 ◆会場＝富山市民プラザ アトリウム

Vol.91 10/19(木)

◆出演＝高尾静也、西浦由佳里(ソプラノ)、
 大川晶也(テノール)、
 岩本輝剛、瀬上純玲(ピアノ)

Vol.92(クリスマスコンサート) 12/21(木)

◆出演＝谷口琴音、加藤恵(ソプラノ)、
 門田宇(バリトン)、村上めぐみ(電子ピアノ)、
 奥田知絵(ピアノ)



入場無料

11 / 18 Sat 春風亭昇太、蝶花楼桃花、三遊亭わん丈
落語競演会

笑点での名司会で大人気。新作、古典問わず高い評価の真打が富山に笑いをお届け。

◆出演＝春風亭昇太、蝶花楼桃花、
 三遊亭わん丈

◆開演＝13:00

◆会場＝オーバード・ホール 中ホール

◆料金＝[全席指定・税込] S席 3,800円
 A席 3,200円
 U-25 2,000円



好評発売中

2024 1 / 8 Mon 2023 グランドオペラフェスティバル in Japan
東京二期会オペラ「椿姫」全3幕

豪華絢爛な舞台と衣裳で魅せる、ジュゼッペ・ベルディ不朽の名作悲劇。

◆作曲＝ジュゼッペ・ベルディ ◆合唱＝二期会合唱団

◆指揮＝アルベルト・ヴェロネージ ◆管弦楽＝東京フィルハーモニー交響楽団

◆再演演出＝澤田康子

◆開演＝14:00

◆会場＝オーバード・ホール 大ホール

◆料金＝[全席指定・税込]



好評発売中

写真提供：公益財団法人東京二期会 撮影：三枝近志
 U-25：鑑賞時25歳以下対象の指定席引換券。座席はお選びいただけません。公演当日、当日券窓口で身分証をご提示の上、入場券とお引換ください。
 U-30：鑑賞時30歳以下対象の座席指定券。公演当日、入場の際に身分証の提示が必要です。 ジュニア：小学生から高校生が対象。SS席とU-30からは選べません。
 ※年齢による入場制限については、各公演で異なります。

AUBADE HALL calendar | 2023.9~11|

※下記は2023年8月17日現在の情報です。変更および追加となる場合があります。

大ホール

9 9(土)

第48回北日本民謡舞踊富山県大会

問 北日本民謡舞踊連合会事務局(北日本新聞社事業局内) : 076-445-3355 (アスネット)

10(日)

爆笑!お笑いフェス in 富山

問 サウンドソニック : 076-291-7800

14(木)

前川清&川中美幸 二人爆笑コンサート2023 富山公演

問 富山公演事務局 : 0570-05-5750 (アスネット)

16(土)

桐朋アカデミー・オーケストラ 特別演奏会

問 桐朋学園音楽部門 富山グループ教学チーム : 076-434-6800 (アスネット)

18(月・祝)

MIRRORBALL Lab Vol.1

問 キヨードー北陸チケットセンター : 025-245-5100

22(金)

郷ひろみ

問 サンライズプロモーション北陸 : 025-246-3939

24(日)

おまわりさんの演奏とドリルの祭典

問 富山県警察本部警務部総務課広報室 : 076-441-2211

25(月)

島津亜矢コンサート2023

問 富山公演事務局 : 076-223-3560 (アスネット)

30(土)

東海東京フィナンシャルグループ presents

葉加瀬太郎 コンサートツアー 2023 「THE SHOW TIME」

問 エンタメスタイル : 076-256-5538

10 1(日)

T-BOLAN LIVE TOUR 2023-2024 "SINGLES"～波紋～

問 エンタメスタイル : 076-256-5538

7(土)

薬師丸ひろ子 Concert Tour 2023 ～愛しい人～

問 キヨードー北陸チケットセンター : 025-245-5100

8(日)

DRUM TAO 30周年記念新作舞台「THE TAO 夢幻響」

問 TAO 事務局 : 092-721-2015 (アスネット)

10(火)

純烈コンサート2023 なんてたってスーパー銭湯アイドル!

問 富山公演事務局 : 076-223-3560 (アスネット)

14(土)

GReeeen LIVE TOUR 2023 "The GAME"

問 キヨードー北陸チケットセンター : 025-245-5100

15(日)

第37回 富山地方鉄道吹奏楽団定期演奏会

問 富山地方鉄道(株)総務課 : 076-432-5530

21(土)

桐朋学園大学 桐朋アカデミー・オーケストラ

問 桐朋学園音楽部門 : 076-434-6800 (アスネット)

29(日)

張鶴来日20周年記念コンサート & 台湾九歌樂団富山公演

問 張鶴来日20周年記念コンサート実行委員会 : 076-481-6918 (アスネット)

11 2(木)

~オーケストラと心に響くひとときを~ 東京交響楽団「アートキャラバン」富山公演

問 TOKYO SYMPHONY チケットセンター : 044-520-1511 (アスネット)

19(日)

桐朋アカデミー・オーケストラ特別演奏会

問 桐朋学園音楽部門 : 076-434-6800 (アスネット)

29(水)

宝塚歌劇 花組公演

問

オーバード・ホールのうた 「夜明けの詩」が誕生しました。

このたび7月1日の中ホール開館にあわせて、オーバード・ホールのうた「夜明けの詩」を制作しました。

作詞はオーバード・ホール芸術監督で音楽プロデューサーの須藤 晃、
作曲はシンガーソングライターの石崎ひゅーい氏によるものです。

ホールの名称 オーバード (AUBADE) は、「夜明けの音楽」を意味します。

新たな夜明けを迎える今、様々な困難があっても、出会いと喜びのある劇場でありたいと願っています。

夜明けの詩

作詞：須藤 晃 作曲：石崎ひゅーい

楽しいことがあったよね いくつも
歌が聞こえてたね
嬉しいこともあったよね たくさん
声が聞こえてたね

人は弱い生きものさ だからね
強くなろうとする
強くなろうとするから 傷つく
誰かの愛がいる

新しい夜明けが来て
忘れてしまうこともある
寄り添って肩を抱くように
忘れられないこともある

新しい夜明けが来て
忘れてしまうこともある
寄り添って肩を抱くように
忘れられないこともある

命より大切なものの
この星にはありません
争いを乗り越えていけ
この星を輝かせて

小さなサヨナラ 大きなさよなら
僕らはそうして生きてゆく
小さな涙と 大きな笑顔で
希望を見つけて生きてゆく

小さなサヨナラ 大きなさよなら
僕らはそうして生きてきた
小さな涙と 大きな笑顔で
希望を見つけて生きてきた

小さなサヨナラ 大きなさよなら
僕らはそうして生きてきた
小さな涙と 大きな笑顔で
希望を見つけて生きてきた

「夜明けの詩」は、
オーバード・ホール公式サイトより視聴できます。

◆ 石崎ひゅーい氏歌唱の特別版
9月26日まで期間限定で
無料視聴が可能です。

◆ インスト版
期間を限定することなく視聴が可能です。



作詞：須藤 晃
オーバード・ホール芸術監督 音楽プロデューサー

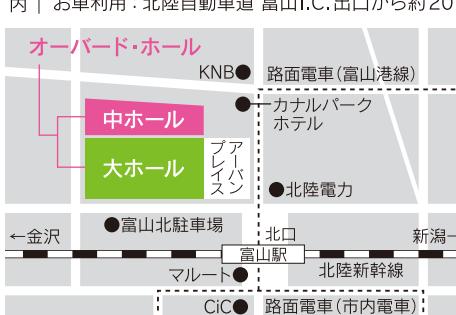
学校に校歌があるように、ホールにも歌があって
歌い継がれたらいいと思った。中ホールの開館の
タイミングで、オーバードを象徴する歌を作ること
になった。ホールには人生の縮図が塗り込められている。
いろんな人生が交錯し、想い出になり希望になり喜びを生み悲しみを繋ぐ。
「夜明け」をテーマに詩を書いた。長く愛される歌になればいいと願う。



オーバード・ホール公式SNSでは、
主催公演などの最新情報を
随時アップしています。
ぜひフォロー・&いいね！してください♪



交通の
ご案内
鉄道利用：富山駅下車、北口正面から徒歩3分
航空利用：富山空港よりタクシーで約25分、
バスで富山駅まで約30分
お車利用：北陸自動車道 富山I.C.出口から約20分



オーバード・ホール(富山市芸術文化ホール)

大ホール 〒930-0858 富山県富山市牛島町9-28

中ホール 〒930-0858 富山県富山市牛島町9-17

TEL.076-445-5620

<https://www.aubade.or.jp>

【オーバード・ホール】

最新情報はHPをご覧ください



ミテミテ77-2023.Autumn号

発行日：2023年8月28日

発行所：公益財団法人 富山市民文化事業団

TEL.076-445-5610

企画・編集：Mite Mite編集室

Design : CROSS

Cover Photo : イマデラガク